

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)SVH小田原店	階数	地上2F
建設地	小田原市国府津字北桃重2880-5、 -7、小八幡字一丁田773-1、-8	構造	S造
用途地域	工業地域・都市計画区域内(市街化区域)	平均居住人員	845 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,475 時間/年(想定値)
建物用途	物販店・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年8月 予定	評価の実施日	2018年10月1日
敷地面積	19,044 m ²	作成者	大和ハウス工業(株)横浜支社 建築一級建築士事務所
建築面積	12,446 m ²	確認日	2018年10月5日
延床面積	12,369 m ²	確認者	大和ハウス工業(株)横浜支社 建築一級建築士事務所

外観/パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 74%
③上記+②以外のオンサイト手法 74%
④上記+オフサイト手法 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安を示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.5

音環境: 2.6, 温熱環境: 1.8, 光・視環境: 3.0, 空気質環境: 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

機能性: 3.5, 耐用性・信頼性: 3.0, 対応性・更新性: 3.6

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

生物環境: 3.0, まちなみ・景観: 3.0, 地域性・アメニティ: 3.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

建物外皮の熱負荷: 1.0, 自然エネルギー: 3.0, 設備システム効率化効率的運用: 5.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.8

水資源保護: 2.2, 非再生材料の使用削減: 2.7, 汚染物質回避: 3.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

地球温暖化への配慮: 4.0, 地域環境への配慮: 3.1, 周辺環境への配慮: 3.2

3 設計上の配慮事項		その他
総合 空間のゆとりや設備の更新性に配慮した将来の用途変更可能性に対応した建物計画としている。また換気制御システムを導入することにより外気負荷抑制を行いエネルギー削減できる計画としている。		
Q1 室内環境 CO ₂ などを監視及び自動制御するシステムを導入して室内空気環境を一定条件下に維持させる計画としている。	Q2 サービス性能 内装材は耐用年数の長い建材を採用している。また十分な天井高を設け広さ感、開放感をもたらす計画としている。	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー BEIm=0.69	LR2 資源・マテリアル 躯体+軽鉄+仕上材のディティールとしている。	LR3 敷地外環境 自転車置き場、駐車場及び荷捌き用車両の駐車施設を確保している。車両の出入りはOUT・INを専用でそれぞれ2ヶ所づつ設置して周辺道路の渋滞緩和対策としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される